

越谷の民話

日本各地で語り継がれてきた民話。越谷にもあるのはご存じですか。今号では、越谷で古くから伝えられてきた民話の中から、4つを紹介いたします。

民話って何？民衆の中から生まれ、伝承されてきた説話のこと。

力持ち卯之助

これは今から190年ぐらゐ前のお話です。大袋地区の三野宮に卯之助という人がいました。子どものころは、病気がちで、近所の子どもたちにいじめられていました。

そのころの子どもたちは、重たい石を持ち上げたりして、力くらべをしていました。でも、ほかの子に持ち上がる石でも卯之助には持ち上がりません。

「ヤーイ、ヤイ、卯之助のいくじなし」

卯之助は、悔しくて仕方ありません。それからというもの、卯之助は奮起一番、来る日も来る日も力持ちになれるよう練習を続けました。

卯之助が24歳のころ、越ヶ谷の久伊豆神社で力くらべの興行がありました。この興行で、卯之助は重さ50貫目(約190キ)もある大きな石を持ち上げて周囲の人を驚かせました。

こうして力自慢になった卯之助は、江戸に出ると一座をつくって、力持ちを見せ物として巡って歩くようになりました。舟の上に馬と人を乗せ、この舟を足で上げたり、米俵をいくつも持ち上げたり、酒だるを片手で持ち上げたり、それはそれは大変な人気です。また、行く先々の神社では、大きな力石を持ち上げては、これを奉納しました。



塩かけ地蔵

元禄年間というから、今から約300年以上前のこと。大沢の農家与兵衛さんの家に、次々と太った男の子が誕生したそうです。

初節句も無事に済み、すくすくと育っていききましたが、ある日のこと、子どもたちは高い熱を出すと、そのまま意識をなくしてしまいました。若い両親は、それまで経験したこともない病気に、すっかり気が動転し、ただオロオロとするばかりです。医者よ薬よと八方手を尽くしましたが、一向に良くなりません。おばあさんも、かわいい孫のこと、気が気ではなく、あちこちの神や仏に祈りましたが、さっぱり治りません。そんなある日、近所の方がこう教えてくれました。「大沢のお地蔵さんは、大層御利益があるそうじゃ」。おばあさんは早速出かけて、「かわいい孫の病気を治してくれるなら、必ず「塩断ち」をいたします」と願をかけました。塩のない生活をするのは、大層辛抱のいることだったのです。

その夜のこと、お地蔵さんがおばあさんの夢枕に立って言ったそうです。「三日三晩の後、孫の病は治るぞや」。するとどうでしょう。お告げのとおり孫はみるみる元気になりました。おばあさんは、願をかけた証として、3日分の塩を持ってお礼参りに出かけました。

大沢の光明院のお地蔵さんに塩を振りかけるのが習わしになったのは、それ以来のことだといえます。



力くらべと力石

この話に登場する力石とは、力くらべや体力を養うために使われた石のことです。当時、力くらべは神社の祭礼や寺社の建築・補修をするための資金集めとして行われたほか、興行のひとつになっており、庶民の娯楽として親しまれていました。

「三ノ宮卯之助」の銘が刻まれた力石は、全国に38個確認されています。関東地方以外では、山梨県・長野県・大阪府・兵庫県に残されており、全国で力持ち巡業が行われていたことがわかります。市内には三野宮香取神社、久伊豆神社、卯之助生家に合わせて6個の力石があり、これらは平成25年3月29日に、市



▲興行引札(チラシ)

指定文化財となりました。三野宮香取神社にある力石は「大盤石」の銘を持ち、重さが約520キあります。

日本一の力持ち

力くらべには、相撲と同様に番付があります。卯之助は嘉永元年(1848年)6月に当時の最高位である大関となり、「日本一の力持ち」と言われていたようです。



▲三野宮香取神社の大盤石

光明院住職 蛭田智之さんに話を伺いました



私が子どものころ(50年くらい前)と比べると、お地蔵様は、今よりも少し大きかったです。東日本大震災のとき、本堂の正面に設置していた石灯籠が倒れるなど大きな被害を受けてしまいました。お地蔵様は被害を受けずに済みました。

江戸時代、塩は高価なものであったので、人々は塩を断つて願をかけ、願いがかなったときにはお礼参りしてお地蔵様に塩をかけたそうです。この塩によって風化し、現在



▲①厚みがだいぶ薄くなっている

のようになっています。そのため現在は、お地蔵様の姿形を感じる事が難しいかもしれません。

現在お地蔵様は、本堂に向かって左側に安置されていますが、以前は本堂を挟んで反対側にあり、本堂の建て替えと併せて今の位置に移動しました。平成30年に2代目となるお地蔵様をお隣に建立いたしました(②の写真右)。初代のお地蔵様も、2代目のお地蔵様と同じくらいのお地蔵様と同等の大きさだったと考えられます。今では厚みも薄くなり、折れてしまう危険もあるため、塩はかけないようお願いをしています。



▲②江戸時代に建立された塩かけ地蔵(左)

スマツカラ地蔵

昔、元荒川は、花田をぐるりと回って東小林（現在の東越谷）から瓦曾根に向かって流れていました。このころは川の交通が盛んで、大きな荷物などは、みんな舟で運んだものです。

ある日のこと、一隻の舟がお地蔵さんを積んで花田までやってきました。が、急に舟が動かなくなってしまいました。

「お地蔵さんはここで降りたいのに 違うない」船頭さんはこう考えると、お地蔵さんを降ろして花田と増林の境にあたる千間堀の近くの古川の堤におまつりしました。

花田の人々は、これをスマツカラのお地蔵さんと呼んでいます。スマツカラとは、砂河原すなかわらがなまったものといわれ、「スナツカラ地蔵」と呼ぶ人もいます。



このお地蔵さんの背中には、「源海の三十三回忌の供養のために造立ぞうりゅう。 承応4年（1655年）の正月26日」と刻んであり、今から365年も前のことです。

子どもが生まれると、男の子は21日目に、女の子は33日目にお宮参りをするのですが、花田では、越ヶ谷の久伊豆神社にお参りしたあと、このスマツカラのお地蔵さんにもお参りをしていたということです。

オイテケ堀

昔から低地が広がり、川の多い越ヶ谷付近では、夏から秋にかけては、大きな水害をたびたび受けたものでした。

約230年前の天明6年（1786年）7月の大水も、そのひとつでした。見田方の八坂神社わきの元荒川堤防が切れて、大相模の人家や田畑が、それはもう大きな被害を受けました。堤防の切れたところが、川底のようにくぼんでしまつて、大きな大きな内池うちいけが残りました。

それからのことです。日が暮れてからこの辺りを通ると、池の中から「オイテケ、オイテケ」と悲しい声が聞こえてきます。また、ある人は、ここには大きな白い蛇が住んでいて、池のはたを通る人を水の中に引きずり込むのを見たことがあるということです。ですから、みんなはここを「オイテケ堀」と呼んで、誰も近寄ろうとしませんでした。

ある日のこと、一人の巡礼者がオイテケ堀のそばを通りかかると、いつものように「オイテケ、オイテケ」と悲しい声が聞こえてきて、何も知らない若い巡礼者は、あつという間に大蛇に飲み込まれてしまいました。翌日、このことを知った村人たちは、かわいそうな巡礼者のために早速ここに水神宮と弁天宮をおまつりし、池の主を慰めました。それからというもの白い蛇も姿を消し、「オイテケ、オイテケ」の声もしなくなつたということです。



地図①

NPO法人越谷市郷土研究会（会長・渡邊和照さん）所属 加藤幸一さんにお話を伺いました

花田のお地蔵様

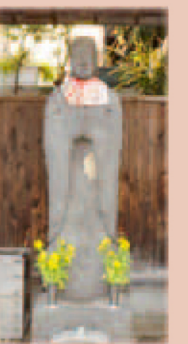
昔、元荒川は天獄寺てんごくじの裏から北東に流れ、花田地区を囲むようにう回し、今の市立図書館が建っている所を通って流れていました（地図②参照）。お地蔵様を乗せた舟は、元荒川を花田苑の先へと進んでいきましたが、カーブを曲がると、急に舟が動かなくなり、急にお地蔵様を降ろし、見晴らしの良い高い所に上げてまつりました。

花田地区では「スナツカラのお地蔵様」とか「花田のお地蔵様」と呼ばれ、人々に親しまれています。地元から離

白蛇伝説とオイテケ堀

大相模地区の見田方の八坂神社の裏に弁天内池べんてんうちいけという巨大な池がありました。内池とは、元荒川の堤土手道の内側にあつた池です。昔からの池には大きな白い蛇が住んでいての「白蛇伝説」がありました。たまに人が通ると白蛇が巨大な姿を現して、その人を池の中に引き込むと人々はうわさをしました。そこで地元の人々は水の神様である弁天様を池の中央の小さな島にまつりました。すると白蛇は人々の前に現れなくなりました。

この白蛇伝説が忘れられよ



現在の花田のお地蔵様

れた地域では「スマツカラ地蔵」と呼んでいました。現在は、当時とは違う住宅街の一角にまつられています。

お地蔵様の台石に書かれた昔の文字（※）を調べて、お地蔵様は江戸時代の初めに江戸（東京都葛飾区の水元公園あたり）から舟で運ばれて来たことがわかりました。

※（※）東葛西庄上ノ割下小 合村 正徳寺



地図②



昔の花田のお地蔵様

うとした昭和30年代（1960年ごろ）になって、東京都墨田区本所の「おいてけ堀」伝説が越ヶ谷にも伝わったようです。池のそばを通りかかる時に「置いてけ、置いてけ」という声が聞こえたら、手に持っている物を置いて逃げたと言います。本所の「おいてけ堀」伝説の影響を受けた「白蛇伝説」が、越ヶ谷の民話「オイテケ堀」として広まりました。地元由来の「白蛇伝説」を越ヶ谷の民話として後の世まで残したいものです。



▲現在のオイテケ堀

天明6年の大水とは？

天明3年（1783年）、浅間山の大噴火により大量の溶岩と火山灰が噴出。吾妻川水害を発生させ、3年後に利根川流域全体に洪水を引き起こし、市内では弁天内池ができました。